

Vol.

82

巻頭 理事長あいさつ

豊かな心とは

～「夢」と「志」を育てる～

夢と志を育てる学園

玉手山学園 広報

2016.9 AUTUMN

Contents

- 巻頭 理事長あいさつ
- 大学 心理科学部創設記念講演会 開催報告
- “関女・福科大学 女子バレーボール部” 3部昇格
「第51回全国私立短期大学体育大会」参加報告
- 大学「ふれあいの集い」に参加
- 短大 公開講座 開催報告
- 理事長杯“中学生バレーボール大会”
- 高校 美化ボランティア
- 高校 キッズフェスタ 大盛況!
- 高校 クラブ活動報告
- 幼稚園 夏祭り・園内キャンプ
- 幼稚園 預かり保育「子育て応援しています!」
- 学園「七夕飾り・短冊づくり」
- 学園「元気」メソッド 二上山登山
- 玉手山学園「イクボス」宣言
- 2016K'sコンサートへのお誘い
- 学園をもっと知ろう!(第1回)～創設者 山田藤一氏～
- 平成27年度決算概要・平成28年度予算概要
- ハンドボール 第6回女子世界ユース選手権大会に参加して

建学の精神「感恩」

人は様々な恩恵を享受し 生かされている
この真理に目覚め 感動と感謝から発する豊かな心と情熱をもって
人の幸せを願い行動するとき 私たちは社会に貢献できる

～「ありがとう」に出会い気づき 感動 感謝の行動から
新しい「ありがとう」が生まれる～



巻頭 理事長あいさつ

豊かな心とは ～「夢」と「志」を育てる～



美しい海の沖縄から 柏原のお年寄りに喜びを

それは思わぬところから始まりました。福科大学生指導員(福科大高校生の学習指導)に興味があり、理事長室に招いた2人は沖縄県人でした。その場で、柏原の高齢者の皆さんに沖縄伝統芸能(三線、カチャーシー)を披露するという話を聞きました。沖縄出身の福科大学生たち9人が、顔も見たことのない“お爺ちゃん、お婆ちゃん”の前で歌い踊る。お年寄りたちの喜ぶ顔が目に見えられました。これは見逃してはなりません。当日(6/11(土) 於 サンヒル柏原)、約180人のご老人の前で彼女たちは緊張し、はにかみながらも、堂々と誇らしく“ふる里の舞”を披露しました。ご老人たちは、少しも照れず歌い手を踊らせ、孫を見守るような優しさで感謝の思いで会場は“和やかな活気”に包まれました。



柏原の高齢者を対象に沖縄伝統芸能(三線、カチャーシー)を披露

学生たち なかなかやるな! 豊かな心とはどんな心 自分の言葉で表す

学生たちは100%の自主的参加です。練習を重ねそして当日、失敗しながらも大勢の方から、心からの“ありがとう”の言葉をもらいました。私は「学生たち“なかなかやるな!”」と、彼女らを誇らしく思いました。そして学生たち自身も、「お年寄りに喜んでもらった、自分たちが人の役に立てた。」という“豊かな気持ち”を堪能したはずで、豊かな心とはどんな心でしょうか、いろいろな体験・表現があると思います。ぜひ教職員も学生・生徒・園児(先生、手伝ってあげてください)の皆さんも自分の言葉で表してください。そしてそれに近づくために何ができるかを考え実践してみてください。そしてその「豊かな心」が夢と志を育ててくれます。

高校新校舎竣工、大学開学20周年に向けて“オモロイ”ことを

高校新校舎建築と大学20周年はいずれも“あたりまえのことではなく”、学園教職員の実直な教育努力・実践と学生・生徒たちの学業専心の成果です。現在およそ5,000名の学生・生徒・園児、教職員たちが元気に学園生活を送っています。この喜び・感謝を学園全体で共有し学園の力を発信するために、“みんなで”楽しめる、ワクワクするような“オモロイ”ことをやってみたい。学園の若手教職員でプロジェクトチームを編成し企画を考えています。ぜひ楽しみにしててください。



高校新校舎 イメージ図
元気な教職員、生徒の気概が建てている

高校のスポーツ教室 楽しみに来てくれるから…

昨夏から高校のスポーツ教室が始まりました。週1回(土曜日の午後6時から)、学園総合体育館“Do夢”で柏原市内の小学生相手にクラブ員(高校生、大学生)がバレーボールと卓球の指導にあたっています。もちろん顧問や応援教員も付き添っています。大好评で参加者が増加の一途です。高校生、大学生たちは小学生の前では大人になります。そしてそれが彼ら彼女らを成長させてくれます。「ありがとうございました」の言葉で疲れも吹っ飛び、充実感・爽やかな気持ち(これも豊かな心)になれます。とはいえ、なかなか大変、気を遣いながらの善意の行為に頭が下がります。ぜひ一度、スポーツ教室の現場を覗いてみてください。



高校生、大学生は小学生の前では“大人”

“日独仏”大学学長会議で思う

初夏に日独仏大学学長会議に参加(於 独・仏)しました。双方、国立大学クラスの学長、副学長、部署長以上の参加者が主であり、国家レベルの大学課題(社会のニーズと研究イノベーション)についての話に終始していました。日本側の参加者は国公立大学が主流で私立大はわずか、そこに若い関西福祉科学大学がその名を連ねました。「学生をしっかり教育し伸ばして、いかに生き残るか」といった話は皆無であり、研究イノベーション関連の熱論は、私にとっては新鮮で刺激的でしたが正直なところ疲れました。独仏はもともと私立大がほとんどなく、国立大学の“エリート学生”が主流です。それでも彼らには彼らの悩み、課題があります。福科大は若者(学生)を伸ばし育てる大学、そのために活発な研究もするところ、大学人としての存在、自負心は国立大学の彼らに勝るとも劣らない誇りを一層強くしました。



仏会議場 於 ソルボンヌ大学



独 午後9時 こんなにも明るい

恩 威

理事長・学園長 江端 源治

心理科学部創設記念講演会

「ポジティブサイコロジーで変わる心理臨床」のレポート

大学 心理科学部 竹橋 洋毅

7月2日(土)に心理科学部により開催されました「ポジティブサイコロジーで変わる心理臨床」についてレポートします。

当日は国際的に著名な認知行動療法の研究者・実践家であり、文部科学省・厚生労働省の委員を歴任された坂野雄二先生をお招きしました。また、大学教員、臨床心理士、看護師、介護師、企業の研究者だけでなく、一般の方や学生にもたくさんご参加いただき、活発な雰囲気でした。

第一部は坂野先生のご講演で、心理学が科学を志向してきた歴史と世界的動向、成果の結実である認知行動療法について紹介いただき、最後に学生への温かなエールをいただきました。

第二部は本学教員によるシンポジウムで、「強みを活かす臨床心理学」と題して研究や実践の成果について紹介しました。内容は、震災後の子供への支援(山田教授)、自閉症児への療育(櫻井教授)、末期がん患者へのターミナルケア(柏木教授)、原発事故後の母親への支援(島井教授)でした。

本企画は、心理学の高い応用可能性を感じさせるとともに、心理学を修めた者として社会に関わることの大切さへの思いを強くしました。従来の心理学では痛みや辛さを和らげるなどのネガティブな事柄への対処に焦点を当ててきたといえますが、本シンポジウムでは人のもつ強さやしなやかさにも光を当て、逆境から立ち上がり、学び、健やかに生きていく術の大切さを強調していたように思いました。坂野先生、参加者の皆さま、ありがとうございました。



心理科学部長 挨拶



第1部 坂野先生ご講演



第2部 シンポジウム



学生と坂野先生との歓談



八田学長 挨拶

“関女・福科大学 女子バレーボール部” 3部昇格 「第51回全国私立短期大学体育大会」参加報告

関女・福科大学 女子バレーボール部 顧問 祖父江 鎮雄 監督 奥野 孝治



第51回全国私立短期大学体育大会 総合開会式(東京体育館)

平成27年度理事会において、本学園女子バレーボール部を四大・短大合同の単一チームとして強化することが決定されました。そして全日本学生連盟と関西大学バレーボール連盟の承認を得て、「関女・福科大学 女子バレーボール部」として、平成28年度春季4部リーグ戦に参加しました。

新入生を迎え、わずかな期間でしたが練習を重ね、チーム編成を行い、4月17日の開幕戦に臨みました。リーグ戦では6勝1敗の2位となり、3部7位チームとの入替戦への出場が決定しました。

入替戦では、京都教育大学に3-0のストレートで勝利し、3部昇格が決定しました。開幕戦から約2ヶ月間、部員一同「挑戦」を合言葉に、一戦一戦、各自が考え、反省と実践を繰り返し、日々努力して頑張った結果、3部に昇格することができました。

一方、学生としては、日々の授業及び各学科の学外・学内実習を大切に、また学園のボランティア活動(熊本地震募金活動)に参加するなど、人間力向上にも努めました。

7月下旬からの春学期定期試験勉強に力を注ぐ一方、短期間の練習の後、「第51回全国私立短期大学体育大会」に参加しました。

チームとしての行動と共に、時間厳守・礼節・マナーの自覚と責任を重視して、猛暑の中、コンディションづくりに苦慮しながら大会に臨みました。

この大会は、日本私立短期大学協会主催、文部科学省・東京都後援で、全国の短期大学生約1,800人が参加しました。総合開会式は東京体育館で、名誉総裁高円宮妃殿下をお迎えし開催され、各短期大学代表入場行進から始まり、各界代表の祝辞、ならびに名誉総裁のお言葉、選手宣誓の後、エキシビションでは東京女子体育大学新体操部の日本一の演技などが披露され、同世代の学生の活動ぶりに刺激を受け、翌日からの試合に向けて気持ちを新たにしました。

本学は予選グループ戦を1勝1敗で突破し、決勝トーナメント初戦で勝利、2回戦で惜敗しました。目標である日本一、あるいは最低3位以内を達成できず、2年連続全国ベスト8の結果でしたが、全ての試合において一生懸命プレーし、中味のある戦いぶりであったことは称賛に値するものでありました。またそれ以上に、試合に向けて早朝より会場入りし、準備怠りなく試合に臨むチームの行動、マナー等は充分今後のチーム力向上につながるものでありました。さらに、大会運営に本学も惜しみなく協力し、大会関係者の方から称賛を得たことは何より学生の成長にもつながり、自覚と責任感、また礼節の大切さを学び得た大会であったと思います。

本クラブの活動に、学園の皆様より温かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。





「ふれあいの集い」に参加しました!!



大学 学生支援センター 玉井 和恵



6月11日(土)、サンヒル柏原にて開催された「ふれあいの集い」に大学の同好会「沖縄県人会」の9名が参加しました。このイベントは、堅下南地区福祉委員会主催で柏原市民の方々約180名が参加されました。

沖縄県人会が学外で活動を行うことは初めてでしたが、限られた時間の中、用意周到に準備を進め、当日に臨みました。沖縄の手遊びの他、沖縄民謡4曲をギターと三線、太鼓を駆使して演奏を行いました。参加者にも一緒にご参加いただき、歌に踊りに、皆様と楽しいひとときを過ごすことができ、大変貴重な体験となりました。



堅下南地区福祉委員会山本委員長からは、「皆さんの熱意に圧倒された。今回の企画は予想以上によいイベントで大成功だった。関西福祉科学大学の学生にお願いして良かった。」と嬉しいお言葉をいただきました。

関西女子短期大学 第28回 公開講座を開催しました。

短大 養護保健学科 石丸 真平



養護保健学科 大西 宏昭教授

6月11日(土)、関西女子短期大学 第28回 公開講座を開催しました。

今回の公開講座は、「健康づくりは まちづくりから」というテーマで、養護保健学科の大西宏昭教授による講演を行いました。

超高齢社会を迎えた現代、高齢の皆さんが住み慣れた地域で心身ともに健康に暮らし続けるための基盤となる「まちづくり」について、柏原市の現状を提示されたうえで、大西教授が実践されてきた他の町等における取り組み事例をもとに考えていきました。

参加された方々は最後まで熱心に傾聴され、公開講座後のアンケートにも、「先生が紹介されたグループワークを私たちもしてみたいと思いました。ぜひお願いしたいです。」「聞くこと+一緒に何か始めたいです。」など、前向きな意見を多くいただきました。





理事長杯“中学生バレーボール大会”



高等学校 足立 匡

学校法人玉手山学園理事長杯“中学生バレーボール大会”も今年で9回目を迎え、真夏のコートで2日間熱戦が繰り広げられました。今年は女子の鳴尾中学校(兵庫県西宮市)・男子の成法中学校(大阪府八尾市)が初参加チームとして加わりました。女子決勝は予選リーグから1セットも落としていない堅下南中学校と鳴尾中学校が対戦し、堅下南中学校が実力の差を見せつけ、今年も優勝を果たしました。男子決勝は、八木中学校と高田中学校の奈良県対決でした。第6回大会でもこの2校同士の対戦で、その時は高田中学校が勝利しましたが、今年は八木中学校がそのリベンジを果たし優勝しました。

どのチームも夏の暑さを吹き飛ばすほどの全力プレーで最後まで諦めず頑張っていました。2日間大きなケガもなく無事終わることが出来ました。



開会式



男子決勝戦



女子決勝戦

美化ボランティア

高等学校 藪田 純一

天候に恵まれて校外周辺を清掃する「美化ボランティア」を実施しました。昨年度の272名から、本年度は368名の参加に増えました。生徒たちは、道に落ちているゴミを拾いながら「(看板の裏や植木鉢の下など)こんなところにゴミが落ちている!」と驚いた表情でした。

「ゴミを捨てる人より、拾う人に。」そんな心を育てるきっかけになったと思います。



キッズフェスタ 大盛況!

高等学校 中村 陽平



7月20日(水)、保育進学コース行事として第2体育館にて、「キッズフェスタ」を開催しました。関西女子短期大学附属幼稚園から年中・年長クラス(255名)を招いて、3年生は「お店屋さんごっこ」、そして1・2年生は各種イベント(輪投げ、折り紙、迷路、魚釣り、塗り絵

など)を実施しました。生徒たちは学期末考査終了後から限られた日の中で一生懸命、制作や準備にあたりました。

当日は、園児たちも大喜びで、お祭り騒ぎでした。その子どもたちの楽しんでいる姿を見てコースの生徒たちは、さらにやりがいを感じ、ますます保育への意識を高くしました。





平成28年度1学期 高等学校クラブ活動報告



高等学校 小森 泉

今年度もクラブ活動において、素晴らしい成績をあげましたので、報告させていただきます。

なぎなた部

平成28年度春季大会 兼
全国高等学校総合体育大会大阪府予選 兼 国体1次予選

団体の部 優勝
演技の部 第3位
個人の部 優勝

平成28年度全国高等学校総合体育大会なぎなた競技大会
(インターハイ)

個人の部 第5位
団体の部 予選惜敗



インターハイ出場報告

卓球部

第69回大阪高等学校卓球選手権大会

学校対抗の部 女子:第3位
シングルス 女子:ベスト16 ダブルス:ベスト8

第70回近畿高等学校卓球選手権大会

学校対抗の部 女子:ベスト16



近畿大会 会場にて



日本拳法部

第20回西日本高等学校日本拳法選手権大会

団体戦 女子:優勝
男子:第4位
個人戦 女子:優勝、準優勝

第61回全国高等学校日本拳法選手権大会

団体戦 男子:準優勝
女子:第3位
個人戦 女子:第5位(3名)

バドミントン部

平成28年度全国高等学校総合体育大会
大阪府予選会(インターハイ予選)

学校対抗の部 男子:第3位
女子:第3位

水泳部

近畿私立中学高等学校水泳競技大会出場

バレーボール部

平成28年度全国高校総合体育大会大阪府予選 兼
大阪高等学校選手権大会

ベスト32

吹奏楽部

第55回大阪府吹奏楽コンクール中地区大会

高等学校 小編成の部 優秀賞



「優秀賞」受賞報告

「夏祭り!お泊り保育だ!全員集合!!」

幼稚園 杉岡 朋



7月20日(水)・21日(木)、夏祭り・園内キャンプを行いました。今年はお天気に恵まれ、元気な子どもたちの声とともに夏祭りがスタート!金魚すくいやヨーヨー釣り、そしてなんといっても今年の目玉は関西福祉科学大学高等学校保育進学コースの生徒さんによるキッズフェスタ!高校生のアイデアがたくさん詰まったキッズフェスタ!いろいろな遊びを工夫したコーナーが体育館いっぱいになり、子どもたちの目はキラキラ!!

たくさんの時間をかけて準備していただいた内容ばかりで…感動!!高校生のあたたかい気持ちをたくさん受けて、楽しい時間を過ごすことができました。遊んだ後の夕食ではいつもよりちょっと豪華なカレーを食べたりジュースを飲んだり…。そうしているうちに少しずつ陽が沈んで、次はグラウンドでの盆踊りに花火。夢中になって花火を見るうちにあたりはすっかり暗くなり、年長組はワクワクドキドキのお泊りです。何日も前から、「あと〇日でお泊りやんな」とソワソワしていた子どもたち。みんなで短大の寮の大きなお風呂に入り、パジャマに着替えて友達と一緒に布団の中へ。待ちに待ったこの日、子どもたちはどんな夢を見たのでしょうか?

今回もたくさんの方にお力をいただき、夏祭りや園内キャンプができたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。この二日間で感じたことや経験したことは子どもたちの大きな成長へとつながりました。本当にありがとうございました。今後共、よろしくお願いいたします。



預かり保育「子育て応援しています!!」

幼稚園 村井 恵

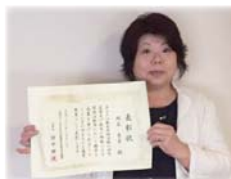
毎日子育てを頑張っている保護者の方を少しでもお手伝いしたいという思いで、平成18年から始まった預かり保育。それからあつという間の10年間。たくさんの保護者、園児にご利用いただきました。開始当初は平日の保育終了後17時まで、学期単位の契約を基本に行っていましたが、保護者のニーズにおこたえできるよう、少しずつ改良を重ね、現在は平日、保育開始の2時間前、保育終了後18時までには延長し、春、夏、冬の長期の休暇中と土曜日も行ようになりました。

子どもたちにとって、いつものクラスとは違う遊びやおもちゃを使うことができ、異年齢児とのふれあいが持て、クラスの時とは違う表情を見せてくれる場になっています。これからも、夕方うちの人が迎えに来てくれるまでの間、ほっと安らげる環境を大切に、子育ての応援団として工夫や努力を重ねていきたいと考えています。



おめでとうございます!

幼稚園の岡本秀美教諭が、公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構より、優秀教員として表彰されました。



岡本教諭
「受賞は私一人のものではなく、皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。これを励みにより一層頑張ります。」

★ ★ 地域連携センターで ★ ★ 「七夕飾り・短冊づくり」を実施しました!

法人本部 地域連携センター 藤井 亮佑



夢や志を語り合う場をつくることで学園全体が元気になることを目的に、「七夕飾り・短冊づくり」を7月4日(月)～7月7日(木)の4日間、有文館1Fの地域連携センターで実施しました。

天候に恵まれたおかげで、多くの学生・生徒・園児・教職員の皆さまに参加いただき、初対面の学生同士が交流したり、大学生と高校生が一つの机で談笑しながら七夕飾りを作ったり、短冊を書く微笑ましい光景が見られました。

短冊は、「必ず資格を取得する!」や「希望大学の合格」といった決意表明が記載されたものが多く、また、両親や教員に対する感謝の気持ちや祖父母の健康を祈る短冊も数多く見られました。今回の取り組みを通じて、建学の精神「感恩」が学園全体に浸透していることが伝わってきました。

※願い事が書かれた短冊と飾りは、柏原市田辺にある春日神社で丁重にご祈禱いただき、お焚き上げをしていただきました。

「二上山登山」を実施しました!

法人本部 財務部 西 富子
法人本部 地域連携センター 藤井 亮佑



山頂にて

「学園“元気”メソッド」の一環で、7月3日(日)に第7回目の二上山登山を実施し、学園関係者28名が参加しました。

二上山は奈良県葛城市と大阪府南河内郡太子町にまたがる北方の雄岳(517m)と南方の雌岳(474m)の2つの山頂がある双耳峰で、学園歌に登場する山です。

当日は明願寺の駐車場からスタートし、雄岳、馬の背、雌岳、ふるさと公園をゴールとした約6kmのコースを辿りました。日差しが強い暑い中での登山でしたが、全員無事雄岳まで登り切ることができました。

雌岳で昼食と休憩をとり、その後、「ローリングアイスボール」を使ったレクリエーションを楽しみました。ローリングアイスボールとは2重構造のボールで、内側(アルミニウム容器)にアイスクリームの材料を投入し、そして外側に氷を詰めた状態でボールを転がせばアイスクリームができるというものです。参加者全員で協力してローリングアイスボールを転がし、完成したアイスクリームを雌岳頂上で食べながら歓談しました。

今回の登山を通して、学園関係者同士の親睦を深めることができ、「この学園に入ったら、元気・やる気が出てきた」と言われる学園づくりに職員一人ひとりが担っているという意識のもと、今後の業務に取り組んでいきたいと思えます。

達成感を味わえる二上山登山に是非ご参加ください!



玉手山学園はイクボス宣言を行いました!

法人本部 経営企画室 植田 陽

9月3日(土)、柏原市民文化会館リビエールホールにおいて、中野柏原市長、早川会長(商工会議所)、大阪教育大学と共同のイクボス宣言署名式に江端理事長が出席しました。

それと同時に玉手山学園独自のイクボス宣言も行いました。

「イクボス」とは…

職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司のこと。



玉手山学園イクボス宣言



イクボス共同宣言式 於:リビエールホール

玉手山学園イクボス宣言

玉手山学園は、職場で共に働く教職員のキャリア形成を図りながら、ワーク・ライフ・バランスを考慮し、仕事と家庭生活を両立できるよう応援します。また教職員の自己啓発を支援するとともに、創造性豊かで活気のある職場づくりをめざし、「夢と志を育てる学園」に向かって邁進します。

玉手山学園イクボス宣言

柏原市イクボス宣言

私は、職場で共に働く部下のキャリアと人生を応援しながら、組織の成果を出しつつ、自らも輝く「イクボス」になることを誓います。

【宣言文】

1. 職員の仕事と生活の調和を考慮し、育児・介護・家事などの家庭生活と仕事を両立できるよう応援します。
2. 職員の家庭生活の充実とともに、自己啓発や地域貢献(ボランティア活動など地域の担い手としての役割)を応援します。
3. 仕事と生活の調和を図るための支援制度の活用や、年次休暇を取得しやすい職場環境をつくります。
4. 組織の長として求められる責務を果たし、十分成果を上げます。

イクボス共同宣言



2016K'sコンサートへのお誘い

学園吹奏楽団運営委員会
法人本部 総務部 浦城 均



第9回目を数える「K'sコンサート」は、毎年多くの来場者をお迎えし、柏原市の年末の恒例行事として市民の皆さまに定着しています。今年度は、来る12月23日(金・祝日)、柏原市民文化会館リビエールホールにて開催されます。

今回は、地元の柏原中学校、堅下北中学校の生徒をゲストとして招待し、中学生による演奏も楽しんでいただこうと企画しております。

また、当日は例年通り附属幼稚園児による「各種入選作品展」を企画しておりますので、こちらもぜひ楽しみにしていただきたいと思います。

玉手山学園吹奏楽団メンバーは、「音楽を通じて皆さんに笑顔と元気をもたらせられたら、そして自分たちも幸せになる」という思いを持ち、エネルギーあふれる演奏を繰り広げてきました。地域の皆さまへの感謝の気持ちがメンバーの演奏への情熱、原動力になっています。

心和らぐメロディーを聞きながら、今年1年を振り返り来る年を想う、そんな素敵な夜を皆さまと一緒に過ごせたらと思っています。

どうか、たくさんの皆さまのご来場をお待ちいたしております。

玉手山学園吹奏楽団・K'sコンサートのホームページはこちら
⇒<http://www.houjin.fuksi-kagk-u.ac.jp/concert/>



学園をもっと知ろう!(第1回)

～創設者 山田 藤一氏～

法人本部 経営企画室 植田 陽

みなさんは勾玉橋を渡ったところに「山田藤一像」があることをご存知でしょうか。たぶん一度は目にしたことがあると思いますが、この人いったい誰?なんて思っている人もいるかもしれませんね。

私たち教職員は「学校法人」に勤務していると同時に『玉手山学園』で働いています。また学生・園児・生徒のみなさんも単に学校ではなく『玉手山学園』に学んでいるのです。そんな「玉手山学園」をもっといろいろ知ってほしいと思い、数回にわたって「学園をもっと知ろう!」というテーマで、知っていそうで知らない「学園のあれこれ」を紹介していきたいと思います。

最初に質問です。みなさんは私学の「存在意義」はなんだと考えておられますか?私学の特長のひとつは、**独自の「建学の精神」に基づき、個性豊かで多様な教育を行う**ことです。それは他の私学との差であり、**国公立との決定的な違い**なのです。それぞれの私学が独自の「建学の精神」をもっています。**玉手山学園の「建学の精神」は「感恩」**ですが、まずは学園の創設者「山田藤一」氏について少し触れます。

山田藤一氏は明治28年兵庫県網干に生を受けました。高校を卒業後、銀行、職人を経て鈴鹿商店に抜擢人事で入社しました。そこで経営危機に陥っていた同商店の復興、再建をなしとげ、総支配人となりました。以降次々と大きな会社を興し、



山田 藤一氏

昭和17年、御年47歳のときに、利益を社会に還元(恩返し)する方法として、学校の設定を選択したのです。当時のお金で100万円、現在の価値にして数十億円です。貧しい農家に生まれ、まさに裸一貫、丁稚奉公から始まり、血と汗が滲むような苦勞・努力の末に得られた資産の浄財により玉手山学園は誕生したのです。また学園創設から10年ほど経ったある日、住友財閥の田中氏より当時有頂天になっていた山田藤一氏に対し**「己ひとりの力でなしえたことではない、感謝の念、恩義を感ぜずしてどうする」**と一喝されたというエピソードも創設者自ら語っておられます。

今回は創設者山田藤一氏と学園の誕生についてでした。



学園創設者 山田 藤一像

国や地方自治体ではなく、一人の個人が「自分が人を育てる」という教育情熱のもとに興される学校、それが私学です。建学の精神「感恩」は学園のすべての教育研究活動の出発点です。創設者山田藤一氏なくしてこの学園は生まれていません。夢と志を育てる学園として、これからも玉手山学園は“ありがとう”を大切に作る心豊かな人を育て続けてまいります。

理事長・学園長 江端 源治

感恩

平成27年度決算概要

資金収支計算書 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで (単位:千円)

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金収入	4,120,902	人件費支出	3,245,027
手数料収入	93,094	教育研究経費支出	1,210,302
寄付金収入	16,512	管理経費支出	591,984
補助金収入	1,199,936	借入金等利息支出	0
資産売却収入	0	借入金等返済支出	0
付随事業・収益事業収入	67,989	施設関係支出	825,892
受取利息・配当金収入	56,134	設備関係支出	452,572
雑収入	120,466	資産運用支出	166,150
借入金等収入	0	その他の支出	180,849
前受金収入	852,962	資金支出調整勘定	△260,143
その他の収入	1,117,738	次年度繰越支払資金	3,820,101
資金収入調整勘定	△972,085		
前年度繰越支払資金	3,559,086		
収入の部合計	10,232,734	支出の部合計	10,232,734

事業活動収支計算書 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで (単位:千円)

科目		決算	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	4,120,902	
	手数料	93,094	
	寄付金	17,277	
	経常費等補助金	1,133,898	
	付随事業収入	67,989	
	雑収入	120,106	
	教育活動収入計	5,553,266	
	教育活動支出の部	人件費	3,242,819
		教育研究経費	1,674,319
		管理経費	633,004
教育活動支出計		5,550,142	
教育活動収支差額		3,124	

科目		決算
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	56,134
	教育活動外収入計	56,134
教育活動外支出の部	その他の教育活動外支出	0
	教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額		56,134
経常収支差額		59,259

科目		決算
事業活動収入の部	資産売却差額	0
	その他の特別収入	83,656
	特別収入計	83,656
事業活動支出の部	資産処分差額	384,535
	特別支出計	384,535
	特別収支差額	△300,878

基本金組入前当年度収支差額	△241,620
基本金組入額合計	△293,192
当年度収支差額	△534,812
前年度繰越収支差額	△1,552,601
基本金取崩額	91,044
翌年度繰越収支差額	△1,996,369
(参考)	
事業活動収入	5,693,057
事業活動支出	5,934,677

【資金収支計算書】

学生生徒等納付金収入は、少子化傾向が続く中ではありますが、学生募集活動により学生・生徒数が前年度と比べ増加し、予算比では52百万円増加、前年度比では220百万円増加の4,121百万円となりました。

手数料収入は、予算比では3百万円減少しましたが、入学検定料の増加により、前年度比横ばいの93百万円となりました。

寄付金収入は、予算比17百万円増加、前年度比11百万円増加の17百万円となりました。

補助金収入は、国庫補助金、大阪府補助金等の増加により予算比207百万円増加、前年度比129百万円増加の1,200百万円となりました。

付随事業・収益事業収入は、予算比7百万円増加、前年度比1百万円減少の68百万円となりました。

受取利息・配当金収入は、運用先の見直しなどにより金利収入が増え、予算比18百万円増加、前年度比8百万円増加の56百万円となりました。

雑収入は、退職金財団からの交付金収入の増加により、予算比では50百万円増加、前年度比48百万円増加の120百万円となりました。

前受金収入は、学生・生徒の入学者数が予算に比べて増加したものの、奨学金支給対象者が多かったため、予算比84百万円減少、前年度比42百万円増加の853百万円となりました。

その他の収入は、主として短大7号館建設に伴って発生した第2号基本金引当特定資産取崩収入765百万円、香芝グラウンド等の借地権処分に伴って発生した差入保証金回収収入183百万円により、予算比25百万円増加、前年度比938百万円増加の1,118百万円となりました。

その結果、収入の部合計は予算比185百万円増加、前年度比682百万円増加の10,233百万円となりました。

人件費支出は、学生・生徒数の増加に伴う教員増による人件費増の影響で、また、勤続年数が比較的長い教職員の中途退職が多かったため、予算比横ばい、前年度比241百万円増加の3,245百万円となりました。

教育研究経費支出は、各部門における節減効果が大きく、予算比で70百万円減少しましたが、前年度比では166百万円増加の1,210百万円となりました。

管理経費支出も教育研究経費支出同様、各部門における節減効果が大きく、予算比21百万円減少しましたが、前年度比では63百万円増加の592百万円となりました。

施設関係支出は、予算比では184百万円減少しましたが、短大7号館建設、短大6号館改修工事関連等の支出により、前年度比217百万円増加の826百万円となりました。

設備関係支出は、短大・歯科衛生学科の歯科実習室改修にかかる備品購入、大学・教育学部設置にかかる備品購入等の支出により、予算比7百万円増加、前年度比314百万円増加の453百万円となりました。

資産運用支出は、退職給与引当特定資産繰入支出16百万円、収益事業元入金支出50百万円、第2号基本金引当特定資産への繰入100百万円の合計額であり、予算比1百万円減少、前年度比520百万円減少の166百万円となりました。

上記の結果、翌年度繰越支払資金は予算比622百万円増加、前年度比261百万円増加の3,820百万円となりました。

【事業活動収支計算書】

(教育活動収支)

教育活動収入は、学生生徒等納付金、経常費等補助金等の増加により予算比263百万円増加、前年度比431百万円増加の5,553百万円となりました。

教育活動支出は、教育研究経費及び管理経費の節減に努めたものの、人件費の増加により予算比91百万円減少、前年度比438百万円増加の5,550百万円となりました。

その結果、教育活動収支差額は予算比353百万円増加、前年度比7百万円減少の3百万円となりました。

(教育活動外収支)

教育活動外収入は、受取利息・配当金の増加により予算比18百万円増加、前年度比8百万円増加の56百万円となりました。

その結果、経常収支差額は、予算比372百万円増加、前年度比1百万円増加の59百万円となりました。

(特別収支)

特別収入は、現物寄付、施設設備補助金等をその他の特別収入に計上したことにより予算比で84百万円増加したものの、前年度比では15百万円減少の84百万円となりました。

特別支出は、主として香芝グラウンドの賃貸借契約満了により借地権を処分したこと及び高校2号館撤去に伴い資産処分差額を計上したことにより、予算比横ばい、前年度比373百万円増加の385百万円となりました。(当年度収支差額等)

基本金組入前当年度収支差額は、上記の通り学生生徒等納付金や経常費等補助金等の収入が増加したこと、経費の節減効果により、予算比472百万円増加、前年度比387百万円減少の△242百万円となりました。

基本金組入額合計は、短大歯科実習室改修に伴う備品購入に係る第1号基本金への組入95百万円、第2号基本金への組入100百万円、除却した香芝グラウンドの借地権及び構築物に係る第1号基本金の減少△107百万円などがあり、予算比435百万円減少、前年度比608百万円減少の293百万円となりました。

その結果、当年度収支差額は予算比908百万円増加、前年度比222百万円増加の△535百万円となりました。また、基本金取崩額が91百万円あり、翌年度繰越収支差額は予算比999百万円増加、前年度比444百万円減少の△1,996百万円となりました。

※平成27年度計算書類、平成28年度予算書の詳細については、玉手山学園ホームページ <http://www.houjin.fuksi-kagk-u.ac.jp/> に掲出しています。

貸借対照表 平成28年3月31日

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
科目	本年度末	科目	本年度末
固定資産	19,274,607	固定負債	656,647
有形固定資産	13,039,015	退職給与引当金	656,647
特定資産	5,708,980	流動負債	1,452,196
その他の固定資産	526,612	前受金	852,962
流動資産	3,996,792	その他	599,234
現金預金	3,820,101	負債の部合計	2,108,843
その他	176,691		
		純資産の部	
		科目	本年度末
		基本金	23,158,925
		第1号基本金	22,392,925
		第2号基本金	400,000
		第4号基本金	366,000
		繰越収支差額	△1,996,369
		翌年度繰越収支差額	△1,996,369
		純資産の部合計	21,162,556
資産の部合計	23,271,399	負債及び純資産の部合計	23,271,399

【貸借対照表】

資産の部において、有形固定資産は、短大7号館建設による建物の増加1,072百万円、高校2号館撤去による建物の減少420百万円などにより、前年度末比531百万円増加の13,039百万円となりました。

特定資産は、第2号基本金引当特定資産を短大7号館建設により765百万円を取崩し、今年度においても100百万円を計上したこと、また、退職給与引当特定資産が16百万円増加したことにより、前年度末比649百万円減少の5,709百万円となりました。

その他の固定資産は、香芝クランドの処分による借地権及び差入保証金の減少等により、前年度末比255百万円減少の527百万円となり、固定資産合計では前年度末比372百万円減少の19,275百万円となりました。

流動資産は、現金預金の増加等により、前年度末比253百万円増加の3,997百万円となりました。

その結果、資産の部合計は前年度末比120百万円減少の23,271百万円となりました。

負債の部は、主として未払金と前受金の増加により前年度末比121百万円増加の総額2,109百万円となりました。

純資産の部において基本金は、短大7号館建設による組入等により第1号基本金が867百万円増加し、短大7号館建設による第1号基本金への振替等により第2号基本金が665百万円減少し、前年度末比202百万円増加の23,159百万円となりました。

繰越収支差額(翌年度繰越収支差額)は、事業活動収支計算書の当年度収支差額等で述べたように、前年度末比444百万円減少の△1,996百万円となりました。

その結果、純資産の部合計は前年度末比242百万円減少の21,163百万円となりました。

平成28年度予算概要

資金収支予算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
学生生徒等納付金収入	4,369,834	人件費支出	3,462,836
手数料収入	96,963	教育研究経費支出	1,131,707
寄付金収入	0	管理経費支出	536,151
補助金収入	1,478,366	借入金等利息支出	0
資産売却収入	0	借入金等返済支出	0
付随事業・収益事業収入	70,661	施設関係支出	1,961,382
受取利息・配当金収入	22,500	設備関係支出	235,868
雑収入	103,817	資産運用支出	203,500
借入金等収入	0	その他の支出	240,046
前受金収入	927,864	[予備費]	32,000
その他の収入	161,537	資金支出調整勘定	△109,440
資金収入調整勘定	△934,923	翌年度繰越支払資金	2,422,670
前年度繰越支払資金	3,820,101		
収入の部合計	10,116,720	支出の部合計	10,116,720

【資金収支予算書】

平成28年度予算は、大学の教学組織再編及び高校新校舎建設等のため、積極的な投資を含んだものとなり、収支の均衡を欠く予算編成となりました。

資金収入は、厳しい学生募集環境にあるものの、教育学部設置等による学生・生徒数の増加により学生生徒等納付金収入及び補助金収入が増加しています。しかし平成27年度に計上していた短大校舎建設に伴う第2号基本金引当特定資産の取崩収入が平成28年度には無いため、前年度比192百万円減少の6,297百万円となりました。

資金支出は、大学の教育学部設置等、教学組織再編に伴う教員の新規雇用等による人件費の増加、高校新校舎建設等の積極的な投資により、844百万円増の7,694百万円となりました。

その結果、資金収支差額が1,397百万円の支出超過となり、次年度繰越資金が減少する予算編成となりました。

事業活動収支予算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位:千円)

科目		予算
教育活動収支	事業活動収入の部	
	学生生徒等納付金	4,369,834
	手数料	96,963
	寄付金	0
	経常費等補助金	1,083,738
	付随事業収入	70,661
	雑収入	104,692
	教育活動収入計	5,725,888
	事業活動支出の部	
	人件費	3,462,203
教育研究経費	1,644,087	
管理経費	580,971	
教育活動支出計	5,711,261	
教育活動収支差額	14,627	
教育活動外収支	事業活動収入の部	
	受取利息・配当金	22,500
	教育活動外収入計	22,500
	事業活動支出の部	
その他の教育活動外支出	0	
教育活動外支出計	0	
教育活動外収支差額	22,500	
経常収支差額	37,127	
特別収支	事業活動収入の部	
	資産売却差額	0
	その他の特別収入	394,628
	特別収入計	394,628
事業活動支出の部		
資産処分差額	0	
特別支出計	0	
特別収支差額	394,628	
[予備費]	32,000	
基本金組入前当年度収支差額	399,755	
基本金組入額合計	△1,786,677	
当年度収支差額	△1,386,922	
前年度繰越収支差額	△1,996,369	
基本金取崩額	0	
翌年度繰越収支差額	△3,383,291	
(参考)		
事業活動収入	6,143,016	
事業活動支出	5,743,261	

【事業活動収支予算書】

事業活動収支においても資金収支と同様に学生生徒納付金及び補助金の増加より、事業活動収入は前年度比815百万円増の6,143百万円となりました。

事業活動支出は、大学の教学組織再編に伴って人件費が増加したものの、教育研究経費及び管理経費の削減、平成27年度に計上していた資産処分差額が平成28年度には無いことにより、前年度比299百万円減の5,743百万円となりました。

基本金組入額は、平成27年度の短大新校舎建設に引続き、平成28年度も高校新校舎建設等により、前年度比1,058百万円増の1,787百万円となりました。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は前年度比1,114百万円増で400百万円の収入超過となりました。一方、基本金組入後の当年度収支差額は前年度比55百万円増の△1,387百万円となり、翌年度繰越収支差額は支出超過となる予算編成となりました。



大学 教育学部教育学科1年生の富岡佑貴さんが、ハンドボールU-18日本代表として、7月19日より31日までスロバキアで開催された「第6回女子世界ユース選手権大会」に出場されましたので、その感想をいただきました。

ハンドボール 第6回女子世界ユース選手権大会に出場して

関西福祉科学大学 教育学部教育学科1年 富岡 佑貴



「第6回女子世界ユース選手権大会」に出場して、普段経験できないようなスケールの大きい選手と対戦することによって世界のハンドボールを肌で感じることができました。

日本での代表合宿やこの大会を通して、世界や日本のトップレベルの大学生や高校生と一緒にハンドボールをしたことで、自分の長所・短所だけでなく、考えの甘さや今後の課題を実感することができました。また、ハンドボールのことだけでなく、異文化の中で自分が持っている力をどれだけ発揮することができるかなど、私生活の時間の使い方や食生活などについてもたくさんのことを学ぶことができました。

本学ハンドボール部は、8月28日から始まる秋季リーグ戦に向けて、全日本インカレ出場を目標

にチーム一丸となって日々練習に励んでいます。目標を達成するには、チームが一つになり、一人ひとりが責任をもってプレーすることが大切だということもこの大会で学べたので、これからも練習や一試合一試合を大切に、経験したことを無駄にせず頑張りたいと思います。

ハンドボール部監督より

ほんの一握りの選手しか体験できない貴重な経験を今後活かし、これからも頑張ってもらいたいと思っています。

監督 山崎 英幸



学園広報編集委員会

委員長 山口 美和 (大学社会福祉学部)
委員 山本 円香 (大学事務局)
西岡 奈津美(大学事務局)
高橋 賢悟 (高等学校)

村井 恵 (幼稚園)
植田 陽 (法人本部)
早川 充昭 (法人本部)

藤井 亮佑 (法人本部)
藤岡 英里花(法人本部)